

がん検診専門部会における主な意見

<がん検診受診率について>

○ 検診受診率の向上について

- ・ 特定健診との同時受診の促進や受診機会の確保といった面で北海道が調整を促すべき。
- ・ がん検診の受診率の向上には検診（健診）事業や健康推進の諸事業と連携して、道民の健康全般の意識を高める取組が望ましい。
- ・ がん検診の意義や正しい知識の普及啓発について、市町村だけでなく、職域の担当者等も一体的に取り組むべき。
- ・ 未受診者に対する受診勧奨の取組について、リコール率の高い市町村をモデルとした受診勧奨のマニュアルを作成し配布すべき。

○ 職域で行うがん検診について

- ・ 職域検診でのがん検診実施率について、道内企業に対しアンケート調査等を行い、不十分なところには指導力を発揮すべき。
- ・ 道民が受診しやすい環境の整備を図るには職域との連携が必要であり、職場でのがん検診受診の機会の確保が受診率向上に繋がると考える。

<精密検査受診率について>

○ 精密検査受診率の向上について

- ・ 検診受診者を増やす施策は今後も重要ですが、現場では精検受診率向上が極めて大切であることを認識していただきたい。
- ・ 受診率について少しでも目標に近づけられるよう、職域での検診の把握と管理等を行い、具体的な対策を行う必要があると考える。

○ 精度管理について

- ・ 精密検査の受診率向上には、住民への呼びかけだけでなく、実施医療機関へ精度管理の重要性を周知する等、多方面へのアプローチが必要だと考える。
- ・ 企業と一体となった職域でのがん検診の受診促進については、がん検診の精度管理対策もステップアップして、不利益が発生しないようにしなければならない。

<感染症対策について>

- ・ HPVワクチンの接種勧奨や、未成年者へのピロリ菌除菌の普及などを進めるべき。
- ・ 道民がHPVのようなウイルスに関する知識を得る機会はあまりないため、感染しなくてもがんになるリスクがあることと合わせ、啓発を通じて必要な知識を広く知っていただきたい。

→ 素案に反映（ピロリ菌検査等の調査、情報提供）

<たばこ対策について>

○ たばこ対策の取組について

- ・ 成人の禁煙対策ではなく、未成年の喫煙対策・最初からたばこに接しない教育の推進が有益だと思う。

→ 素案に反映（学習指導要領に基づくがん教育、がんに関する正しい知識の普及啓発）

○ 受動喫煙対策について

- ・ 個別目標に路上喫煙者に対する教育等を盛り込むことはできないか。

→ 素案に反映（望まない受動喫煙対策）